

平成23年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和佐小学校
校長氏名	酒井 美智子
作成日	平成24年2月18日

1 教育目標

心身ともに健康で、人間性豊かな実践力のある子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報発信を積極的に行い、地域の方々へ本校の教育に関心を持っていただく。 地域と共に輝く子をめざした総合的な学習の時間の推進と地域教育力を生かした学校教育活動の重視を行う。 保護者や地域の方の願いや思いをくみ取り、それを学校全体のものにする等信頼される開かれた学校作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を通して道徳教育の充実を図り、安全で生命や人権を大切に教育に努める。 体験学習を通して豊かな心を育てる。 一人ひとりを大切に指導、一人ひとりを大切にする学級経営を行う。 和佐を愛し和佐を誇りに思う心を育て、将来に夢や希望の持てる教育に努める。 全教職員で全児童を育てる。 読書を通して豊かな感性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に即した指導を心がけ、子どもが主体的に取り組む授業を目指す。 一人ひとりの願いや思いに対応し、一人ひとりのもっている可能性を十分にのばす教育に取り組む。 基礎学力向上に努める。 いつも集団の中で生活していることを意識させ、常に自分の行動のあり方を考えさせ、「よりよい生活をしよう」と考える子どもの育成を図る。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを定期的に更新したり、「学校だより」を支所、郵便局等に配布したり、回覧板を通じて地域の全戸に新しい情報を発信した。 地域に出向き、学校の様子を直接伝えることや地域の方の声を聞く機会を多く持つように努めた。 保護者や地域の方の声に耳を傾け、誠意を持って対応した。 ゲストティーチャーを招いての学習や地域の方を招いての学習発表会など、地域とのつながりを深めた。 すべての集会活動を公開し、多くの保護者の参観を得た。 目指す学校像をわかりやすい言葉で表示すると共に本校の取組みが一目でわかる掲示を行った。 地域の方々と共に防災教室・防災訓練を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域にある史跡や先人の偉業を体験的に学習し、地域の特性(自然・人・歴史)を取り入れた教育実践を行った。 「心のノート」・「副読本」・「地域資料」等の資料を効果的に活用し、指導を充実させると共に、道徳の時間と豊かな体験活動の両者を計画的発展的に関連付けた取組を進めた。 数々の集会、交流活動、体験活動等の取組を行った。 一人一人の子どもの家庭環境を良く知るように努めた。 あいさつをすることで、互いが気持ちよく生活できることの取組を積極的に進めた。 学級活動や話し合い活動を通して、互いの行動を見つめさせることで譲り合うことや我慢することを体得させた。 一人一人の児童が毎日楽しく生活できるように「いじめアンケート」を毎学期実施し、アンケートの結果から学級指導・個別指導に根気強く取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成の基準を具体的に持ち、子ども一人ひとりの成長を的確につかんだ。 学力から見た和佐っ子の姿を話し合い具体的方策を考え、全職員が共通理解の上取り組んだ。 児童一人ひとりに学ぶ喜びを味わわせられる活動内容、方法などの改善を進めた。 一人一授業または一実践を目標に校内研究授業を行い、充実した協議会をもち、互いの指導力を高めた。 「知的好奇心・探究心」を育む学校環境の充実に取り組んだ。 毎朝の学習タイム(10分間)を効果的に使い、学習の定着を図ると共に、学習習慣を身につけさせた。 「かく」活動を大切に学習を行うことで話し合い活動や表現力を高めることに結び付けることができた。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価委員や学校評議員、保護者のアンケート、地域の方々の声から判断して、ほぼ達成できたと思われる。 保護者のアンケートでは「学校は学校の教育活動や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝えられている」という項目で「とてもそう思う」と「まあそう思う」の回答が74%で昨年度の72%よりアップしている。しかし、24%が「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答がありなお改善の必要がある。 地域の方々から放課後の児童の様子を教えて頂く等、共に児童を育てていく環境が整った。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のアンケート「学校は、子どもに生命を大切にしている心や、社会を守るルールを守る態度を教育している」という項目で「とてもそう思う」と「まあそう思う」の回答が78%で概ね達成できていると思うが、昨年度と同じ割合なのでより道徳教育を充実させるための取組が必要である。 地域の方やゲストティーチャーに「和佐の子どもたちはしっかりと話を聞け、態度がとてもよい」と褒めてもらえることが多くなった。 地域の文化祭と合同で行った「ありがとう集会」では全学年が心をこめて取り組むことができ、地域の方や保護者から児童の心が育っていると評価して頂いた。 郷土学習をするための教材や資料、人材が充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習を各教科で多く取り入れることで、未習事項に対しても積極的に取り組もうとする姿勢が見られるようになってきたが、日々の授業が問題解決型の授業となるようにさらなる取組が必要である。 保護者のアンケート結果を見ると「子どもに分かりやすい授業をしている」「学習内容がよく分かり、基礎的な学力が身に付いている」の問いに「とてもそう思う」「そう思う」と答えた割合がどちらもおおむね80%であったが平成22年度の割合より少し低くなっているため、より分かりやすい授業を目指さなければならない。 23年度の学力テストの正答率が和歌山県平均を上回ることができた。教職員が一体となり学力向上に取り組んだことが評価できる。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方がより学校の様子が分かるような「学校便り」「地域便り」「学年便り」・「ホームページ」作りに努めると共にさらに地域との交流を深める機会を持つようにする。 授業の工夫・改善や懇談会での工夫や改善をすることで保護者との交流や協力関係をさらに深めたい。 平成24年度は福祉教育に取り組み、学校・家庭・地域と共同で教育目標である「心身ともに健康で、人間性豊かな実践力のある子どもを育てる」を目指して取り組むたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験活動や地域の学習を通して、児童は今までになかった考えや気づきをしてゆたかな心を育ててきた。今後道徳教育のいっそうの充実を図ると共に、異学年交流、縦割り活動、体力づくり、幼小交流、地域との交流を充実させ、「和佐を愛し和佐を誇りに思う心を育てる」と共に体力面でもたくましい児童の育成に努力をしたい。 保護者アンケートをみると基本的な生活習慣の定着に課題が残ったので、保護者と協力して共に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の学力テストの結果はおおむね満足できるものであるが、以下の点でさらに取り組みを深める必要がある。 1算数A表現・処理 国語A関心・意欲・態度 2問題を読み取る力や筋道を立てて考え、粘り強く考える力を高めるために言葉や式、図、表などを用いて筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりして、自らが納得したり、他者を説得できるように「書かせること」「考えさせること」を各学年で取り組む。 3家庭学習や基本的な生活習慣を身につけさせるための保護者への啓発が必要である。

4 その他の課題

夏季休業中も含めて、現職教育での取り組みを充実させ、さらに教師一人一人が授業力を高められるように取り組む。
 道徳教育の充実をすべての教育活動を通して行う。
 教師一人一人がITC活用の研修を重ねることで、児童にITCを活用できる機会が多くできるようにする。
 体育の授業や学校行事を通して、体力向上のための取組をさらに積極的に行う。
 「福祉教育推進モデル校」の指定を受けるのでさらに研究・実践を行う。